11/22 県版

コロナ感染対策 手探り

県内教育現場

通知徹底も 決め手なし

県内で新型コロナウイルスの感染者が増加する中、福井市の福井工大福井高校と藤島高校で、生徒らの感染が相次いで確認された。感染拡大が懸念される冬を控え、学校現場は感染防止対策の徹底を図っているが、起死回生の決定策はなく手探り状態が続いている。＝新型コロナ関連⑤⑦⑰面

（鍛下千晶、畑明日香、山内道朗、平林靖博、本田英寛）

県は八月と九月にコロナ感染防止対策を市町教委と私立学校に通知。発熱や風邪の症状がある児童、生徒、教職員の自宅休養や手洗い、マスク着用の徹底、三密（換気の悪い密閉空間、手の届く距離での密集、近距離での会話や発声）の徹底的な回避などを盛り込んだ。

本紙の取材では、各市町教委は公立学校に通知の徹底を要請しているが、通知に加えて独自の感染防止対策を講じていたのは福井市教委だけだった。

福井市教委独自のガイドラインは、教室での換気の徹底やマスク着用などに加え、校内に感染者が出た場合に保護者らに送信する緊急メールの例文など具体的な対策を示している。

中でも給食時の対策を強化した。食事中の会話を控えるため、教材のCDやDVDを流すことを提案。飲み終わった牛乳パックは、数人のグループごとに一つのパックにまとめて廃棄していたが、唾液に触れることを避けるため各自で捨てるなど、工夫している。

独自の対策はないものの、あわら市教委は冬にストーブを出すまで、換気によって冷える教室ではエアコンで暖をとるよう呼び掛けている。大野市教委は特に手指消毒の徹底に力を入れる。

勝山市教委は国の交付金で、避難所対応として加湿空気清浄機などを購入し、全小中学校などに配備する。永平寺町教委は、福井工大福井高校でのクラスター（感染者集団）発生を受けて、町内全小中学校に改めて注意喚起した。

五人の生徒が感染し、クラスターが発生した福井工大福井高校。本紙の取材に応じた藤井貴広教頭によると、感染した教員と生徒は授業でしか接触しておらず、授業中はマスクを着けて一定の距離を保ち、教室の換気も行い三密を回避していたという。

教室の前方だけでなく、後方の生徒も感染した。藤井教頭は「国、県の感染対策を万全に講じていた。専門家ではないので、どうして感染者が発生したのか分からない」と困惑を隠さなかった。

クラスター発生を受けた独自対策は取っていないが「熱があるなどの体調不良者は校舎に入れないなど、これまでの対策を徹底するよう教職員に再確認させた」という。